



教会報

キリストのうちに一つになって、主の平和を広めよう



聖母の被昇天

主任司祭 B. ノヴァク

キリスト者として生きることとは、死によって破壊された私たちの体が復活し、私たちの不滅の靈魂と再び結ばれることによって、自分自身の自己同一性を保ったまま、神との完全な愛の交わりのうちに、イエス・キリストと救われたすべての人々と共に永遠に生きるという希望をもって生きることです。マリアが靈魂も肉体もともに天に上げられたことを記念する「聖母の被昇天」の祭日は、私たちにこの希望を思い起こさせ、強めてくれます。

マリアは、ガリラヤのカナで召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」（ヨハ 2・5）と言われただけでなく、ご自身もそのように生きられました。そのように、マリアはイエスの母であるだけでなく、イエスに最も忠実に従う

弟子でもありました。マリアは、復活と永遠の命についてのキリスト者の希望を思い起こさせてくださるとともに、ご自身の生き方をもって、その目的に至る道をも示してくださるのです。

マリアは、神が誠実な方であると同時に、いつくしみ深い方でもあると信じたからこそ、大きな希望と愛に満たされ、イエスに忠実に従うことができました。ですから、私たちも、誠実でいつくしみ深い父である神に信頼し、イエス・キリストに忠実に従うことによって、できるだけ多くの人々に神の愛を示し、復活と永遠の命への希望を分かち合いながら、神との完全な愛の交わりに向かって歩むことができますように祈りましょう。



平和を祈りましょう！

主任司祭 B. Nowak svd

8月6日から15日までは、日本のカトリック教会にとって平和を祈る特別な期間です。私たちの祈りは、イエス・キリストこそ私たちに平和を与えることがおできになるという信仰の表れです。しかし、平和を願って祈るとき、ヨハネによる福音書に記されている、ミサのたびに繰り返される次の言葉をイエスが語られたことを意識する必要があると思います。すなわち、「平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない」（ヨハネ14・27）という言葉です。イエスはこの言葉によって、ご自分が与えてくださる平和は、この世で人間が築く平和とは異なることを示しておられるのです。

考えてみれば、人間が実現する平和とは、しばしば戦争や紛争が一時的に存在しない状態を意

味するにすぎません。歴史は、そのような平和が脆く、力の均衡に依存していることを示しています。そして、その均衡が崩れると、新たな緊張や戦争が生じます。

紛争の主な原因の一つは、幸福についての誤った理解にあるのではないかと思います。多くの人は、幸福とは自分のあらゆる欲望を満たすことであると考えているようです。ほとんどの場合、人間が自分の欲望を満たすためには、さまざまな力、例えば体力や経済力、あるいは社会的地位などが必要になります。その結果、この人たちは自分の欲望を満たすために利用できる最も普遍的な力である富や財産を手に入れなければならないと思うようになるわけです。しかし、物質的な財には限りがあるため、人々や国家はそれらをめぐって競争し、

何らかの力、例えば軍事力や経済力などに基づいて互いの関係を築こうとします。人類の歴史が示しているように、力が支配するところに、真の平和が長く続くことはありません。

イエスは、ご自分の教えと生き方をもって、それとは異なる道を示されました。次のイエスの言葉は、その道をよく表しています。すなわち、「わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか」（ルカ12・49）。ここでの火とは愛のことです。愛こそが人間の心を癒やし、競争に基づく関係を、無条件の善意に基づく関係へと変えていきます。すべての人が愛に生きるようになって初めて、永続する平和が実現するのです。

そのため、イエスは力や政治的な手段によって平和を築こうとはされませんでした。愛とゆるし、そして奉仕を教えることで、調和を破壊して暴力へと導く利己心と罪の奴隷状態から、人間を解放され

たのです。キリストが与えてくださる平和は、新たにされた心から生まれ、やがて家族、共同体、そして社会全体へと広がっていきます。

平和を築くためにイエスに協力したいと願うなら、私たちは、まずイエスの愛を受け入れ、それを他者と分かち合うことが必要です。私たちの日々の選択、ゆるし、親切、そして隣人への思いやりは、愛の絆によって結ばれた世界を築き、平和を実現するための具体的な貢献となります。

しかし、永続的な平和は、最終的には神からの賜物であることを忘れてはなりません。ですからこそ私たちは、平和を求める祈りを絶やさず、キリストが私たちの心を変え、愛の道へと導いてくださるようお願いしましょう。イエスの約束に希望を置き、真に持続する平和の土台は愛だけであることを、日々の生活の中で私たちが証しする力を神が与えてくださいますように。

聖霊の花嫁なる おとめマリア



この御絵は、絵の下部に記されたラテン語の言葉、「Virgo Maria, Sponsa Spiritus Sancti」の意味のとおり「聖霊の花嫁なるおとめマリア」の姿を描いています。両手を合わせて祈る姿、伏せられた瞳には、マリアの謙遜と神への完全な献身が表れています。マリアの頭上には聖霊が白い鳩の姿で現れ、まばゆい金色の光があふれ出ています。その光はマリアを包み込み、その全身を照らしています。

教会がマリアを「聖霊の花嫁」と呼ぶとき、そこには、マリアと三位一体の第三位である聖霊との特別で神秘的な愛の絆が表現されています。「花嫁」という称号は、聖書における「契約」の象徴に由来しています。聖書では、神は「花婿」、神の民（新約においては新しい神の民である教会）は「花嫁」とされていますが、マリアの場合、この絆はさらに特別な意味を持ちます。

受胎告知の瞬間、聖霊がマリアの上に降臨したとき、彼女は花嫁のような純粋で深い愛をもって、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」（ルカ 1・38）との信頼に満ちた言葉で応えました。マリアは聖霊を受け入れると同時に、その働きに自らを完全に委ねたのです。このとき、聖霊の働きによって神の御子はマリアの胎内で肉体を受け、受肉の神秘が成就したのです。

聖霊はマリアを神秘的な花嫁として選び、愛し、特別な恵みで満たされました。これは人間同士の結婚のようなものではなく、最も深い愛に根ざした完全な一致であり、マリアを神の働きに対して完全に開かれた、霊的に極めて豊かな存在へと高めました。このようにして、マリアは聖霊の完全な協力者となっただけでなく、この花嫁としての聖霊への愛があったからこそ、神の母となり、さらに教会の母となられたのです。

聖霊の愛する花嫁であるマリアは、この御絵を通して、私たち一人ひとりが聖霊を受け入れ、その働きに全力を尽くして協力することによって神の愛に愛をもって応え、ますます深い神との愛の交わりのうちに生きるよう招いています。

聖霊の花嫁なるおとめマリアへの祈り

聖霊の花嫁なる おとめマリア、
あなたは神の豊かな恵みに満たされ、
「お言葉どおり、この身に成りますように」と
ご自身を余すところなく神にささげ、
聖霊の導きに完全に従いました。
あなたの自己奉獻によって、
救い主イエス・キリストは世に来られ、
父である神に完全な愛のいけにえをささげて、
私たちの罪を贖い、父である神と和解させ、
永遠の命への道を開いてくださいました。
無原罪の聖母マリア、聖霊の花嫁、

どうか私たちのために祈ってください。
私たちもあなたに倣い、
神の愛に愛で応え、
いつもイエスに従って、自分自身を神にささげ、
聖霊の働きに協力することができるよう。
そして、私たちの心を聖霊で満たし、
罪と他の悪を退け、
愛と希望と信仰のうちに歩ませてください。
私たちの人生そのものが、
神への喜ばしいささげものとなりますように。
アーメン。

フィリピン・カトリック共同体の紹介



Filipino Catholic Community of Kichijoji (FCC-OK)

カトリック吉祥寺教会は、私たちフィリピン・カトリック共同体（FCC-OK）にとって、日本で信仰を育み、安心して集うことのできる大切な「信仰の居場所」です。

毎月第3日曜日に行われるフィリピン共同体のミサは、私たちにとって大切な集いの場です。ともに祈り、賛美し、信仰を新たにすることこのミサは、日本で暮らす私たちにとって、故郷を思い、心がほっとする大切な時間です。ミサ後の集いには、初めて来られた方も自然に輪に加わり、和やかに語り合う中で温かなつながりが育まれています。

私たちは、教会共同体の一員として、英語ミ

サやさまざまな典礼、教会行事の際、奉仕しています。5月の聖母月には「リビングロザリオ」を開催し、さまざまな国籍の信徒がともに祈る機会を大切にしています。クリスマス前には、フィリピンの伝統の九日間連続ミサを捧げるシンバン・ガビを行い、主の降誕を祈りのうちに迎えています。

これからも、一人ひとりとの出会いを大切にしながら、祈りと奉仕を通して、温かな共同体を育んでいきたいと思っています。そして、カトリック吉祥寺教会の皆さまとともに、信仰を育みながら歩んでいきたいと思っています。

{ ヨゼフ会2026軽井沢セミナー報告 }



今年のヨゼフ会軽井沢セミナーは、7月4日(土)～5日(日)の2日間、御聖体の宣教クララ修道会・軽井沢修道院で開催、参加13名でした。

吉祥寺教会聖堂で「出かけるとき、旅に出る時の祈り」を唱え、フリッツ神父様の派遣の祝福の後、軽井沢をめざして出発。到着後シスター方の心のこもった昼食をいただいた後は、散策や仲間との分かち合いの時を過ごしました。今年の講話のテーマは『旅路…まもなく』でした。「コヘレトの言葉」3章2節の「生まれる時、死ぬ時」に関連してニッサの聖グレゴリオ司教の「コヘレト書についての説教」や「マタイ2章11節」の黄金、乳香、没薬等を引用して教えていただきました。講話の後は、聖堂で「教会の祈り」による晩の祈りをささげ、聖務日課の祈りの霊性に感動いたしました。夕食後の講話では、午後の講話をもとに質疑応答を交えて説明していただき、その後の懇親会では、自分の信仰体験、教会への熱き想い、自己紹介、日々の苦労話等々、素晴らしい分かち合いができました。

2日目は聖堂での聖務日課の朝の祈りから始まり、朝食後、最後の講話では、キリストの愛の日常生活での実践のショートストーリーやマザー・テレサの画像を見せていただきました。高齢のマザー・テレサの慈悲に満ちた笑顔を見て涙が溢れてきました。また、フリートークでは互いの感想を述べ、信仰生活のレベルアップや、吉祥寺教会を司祭団と信徒で力を合わせて魅力ある教会にしたいとのコメントが出ました。フリッツ神父様司式の主日の感謝のミサに参加者全員心を一つにして与り、共同祈願ではこのセミナーで学び、分かち合ったことを吉祥寺教会共同体で実践できますよう祈りました。昼食をシスター方に感謝しながらいただき、帰路につきました。

フリッツ神父様には講話と典礼の指導、また車の運転までしていただき、ありがとうございました。今年はヨゼフ会会員以外の女性2名も参加されました。来年は男女を問わず多くの皆様のご参加をお願いし、今年度のヨゼフ会軽井沢セミナーの報告とさせていただきます。

{ 廣田学神父様の初ミサ }



カトリック吉祥寺教会出身の廣田学神父様が、2026年3月20日に浦上教会において司祭叙階の秘跡を受けられました。7月25日(土)17時ミサおよび7月26日(日)10時30分ミサを、吉祥寺教会での初ミサとして司式されました。



お知らせとお願い

平和の祈り

日本カトリック平和旬間にあたり、吉祥寺教会では、8月6日(木)の18時30分のミサと8月9日(日)の10時30分のミサ、及び両ミサの後に行う聖体賛美式を世界の平和のためにささげます。どうぞ、共に祈ってください。

マリア祭 8月16日(日)10:15～ マリア庭園にて

葬儀ミサのご奉仕にご協力ください

教会では、帰天された兄弟姉妹の為に、葬儀ミサへ出席して、聖歌・式文応答の奉仕をしてくださる方を募集致します。ご協力出来る方は申し込み用紙に記入して、事務室・聖堂入口の箱に入れてください。「葬儀ミサ奉仕グループ」を作り、葬儀ミサの日程が決まったら、メールやライン(その他)でみなさまに連絡致します。皆様は、ご都合がつくときに出席していただきたいと思います。ご検討の上、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

司牧評議会典禮部

聖堂・トイレ掃除について

8月は、聖堂・トイレ掃除をお休みします。

9月第2日曜日10時30分ミサ終了後より、通常どおり行う予定です。

聖歌奉仕の練習について 8月は、聖歌奉仕の練習をお休みします。

8月の事務室と信徒会館について

8月10日(月)から17日(月)まで、事務室と信徒会館は休みです。

また、8月中の土日を除いて、事務受付窓口と信徒会館の利用は午前10時から午後1時までとなります。

ご理解とご協力をお願いいたします。

ミサと講座のご案内

主日のミサ Sunday Mass

曜日	言語など	時間
土曜日 Saturday	日本語 (Japanese)	17:00
日曜日 Sunday	日本語 (Japanese)	9:00 10:30 17:00
第一日曜日 1st Sunday	English (英語)	14:00
第二日曜日 Chúa Nhật thứ hai	Tiếng Việt (ベトナム語)	14:00
第三日曜日 3rd Sunday	Tagalog (タガログ語)	14:00
第五日曜日 5th Sunday	International Mass (国際ミサ)	10:30

週日のミサ Weekday Mass

曜日	時間
月、火、水曜日 / Mon, Tue, Wed	6:45
木曜日 / Thu	18:30
金、土曜日 / Fri, Sat	10:30

8月6日 (木) 18時30分

8月9日 (日) 10時30分

両日のミサは平和を祈るミサとし、
聖体賛美式を行ないます。

カトリック吉祥寺教会の講座

8月中、すべての講座が休みとなります。講座の再開は、9月第二週目の火曜日(8日)からですが、この日のボクダン神父の「新約聖書入門」は、休みとなります。

曜日	時間	講座名	担当者	場所	対象者 / 内容
火	10:00 毎週 (月の第1火休み)	聖書の朗読と分かち合い	フリッツ神父	小ホール	信者、一般の方 / 新約聖書
	11:00 毎週 (月の第1火休み)	新約聖書入門	ボクダン神父	中ホール	信者 / マタイの福音書
	15:00 毎週 (月の第1火休み)	典礼と秘跡	テレンシオ神父	中ホール	信者 / 典礼と秘跡について
水	11:00 毎週 (月の第1水休み)	聖書入門	アナンシー助祭	中ホール	信者 / 聖書に関する教会の教え
木	10:00 毎週 (月の第1木休み)	Bible reading and sharing	Fr. Frytz	小ホール	Intended audience: faithful, general public Content: The New Testament
	11:00 毎週 (月の第1木休み)	恩恵の架け橋聖母マリア	テレンシオ神父	中ホール	信者 / 父である神は、聖母マリアを通してどのように働くかについて
	19:00 毎週 (月の第1木休み)	キリスト教基礎	ボクダン神父	中ホール	一般の方、洗礼・堅信の準備をする方、信者 / カトリック教会の基本的な教え
土	11:00 毎週 (月の第1土休み)	キリスト教基礎	ボクダン神父	中ホール	一般の方、洗礼・堅信の準備をする方、信者 / カトリック教会の基本的な教え

- 洗礼を希望している方、キリスト教に興味をお持ちの方、どうぞご参加ください。
- 受洗後のフォローアップのため、また、聖書・教理の学びを深めるために信徒の方もご参加ください。
- 受講料は必要ありません。 ● 国民の祝日にはすべての講座は休講となります。



吉祥寺教会 公式 LINE

週に一度、主任司祭より福音のメッセージと教会からのお知らせ配信されます。ぜひご登録ください。

カトリック吉祥寺教会 〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8 Tel.0422-44-0181 Fax. 0422-44-0180
維持献金 振込口座 郵便振替口座番号:00120-1-6084 カトリック吉祥寺教会
事務室 受付時間 月曜日 休 / 火～金 10:00～15:00 / 土 10:00～17:00 / 日 9:00～15:00

<https://kichijoji-catholic.org/>

